

埼玉のクルド人騒動（562号）

2024年 5月 石館

埼玉県川口市を中心に問題となっている地元住民とクルド系住民との軋轢。“クルド人が治安を乱している”という指摘が出る中、ある動画が SNS で拡散された。埼玉県蕨市で行われた日本人による外国人排斥を訴えるデモに対し、クルド系とみられる人々が抗議の声をあげている。



埼玉県におけるクルド人騒動は今回が初めてではない。2023年7月、川口市でクルド人同士の殺人未遂事件があり、重傷を負った男らが運ばれた“川口市立医療センター”周辺に双方の親族らが約100人集まり、暴力沙汰になる騒動へと発展した。

どうしてクルド人は荒れているのか。そのトラブルの背景には様々な理由があるようだ。その一つが“クルド人内部での分裂”だ。日本には2000人とも2500人とも言われるクルド人が住んでいるが、5つかあるいはそれ以上のグループに分かれていて、互いに交流が無いようである。

このグループとは、家族・親族のことだ。在日クルド人の多くがトルコ南東部のガジアンテップという地域から来ているが、なかなか広大なエリアだ。同じガジアンテップでも出身地が異なり、親族が違う相手のことを、あまり信用しない傾向にある。同じクルド人だからと言って一枚岩ではないのだ。それどころか、ふだんから険悪な親族同士もある。

異なる親族を容易に信用しない。そういった文化がクルドにはある。彼らはトルコ政府からの迫害を理由に日本に逃れてきて、難民と申し出た人々が大半なのである。その生活は極めて不安定だ。難民申請はほぼ認められず、外国人が日本で暮らすための“在留資格”を持っていない人が多い。住民としてみとめられて

いないため、例えば健康保険をはじめとする医療サービスが受けられない。病院にかかれば自費だ。就労も制限がある。進学もままならない。生活はきつい。



そうであるならば、互いに協力した方が良く思うのだが、そうはならない。年に一度、ネウロズというクルド民族の祭りだけは親族の枠を超えて行うが、それだけだ。

なぜ埼玉県南部にクルド人が集まるのか？

日経ドミニクス電子版

日常生活のなかで付き合いは薄く、対立も根深いが、改善しようという空気はない。どうしてクルド人はそこまで溝があるのであろうか。そこにはいくつかの理由がある。在日クルド人の古株の一人は、“クルド人は昔から遊牧民だった。季節によって移動しながら、農業と牧畜で生きてきた。大変な暮らしで、だから親族同士の絆が強くなるし、同じクルド人も遊牧する場所が違う人々とはなかなか打ち解けない”。



現状クルド人は、トルコ、イラン、イラク、シリアにまたがっておよそ3000～4000万人が住んでいるが、こうした理由からなかなか“一つの民族”としてまとまらなかった。さらに周辺国にその民族性をうまく利用され、クルド人同士の

内部対立を煽るように仕向けられてきた歴史もある。

クルド人は“国を持たない世界最大の少数民族”とも呼ばれるがそこにはこんな事情が絡み合っている。そしてこの構造がそのまま、埼玉県南部に持ち込まれてしまっている。そもそも、在日クルド人社会にはいろいろなひとが混在している、とかねてから言われてきた。本当につらい迫害を受けてきた人もいれば、そうでない人が難民として申し出ることもあると噂される。さらに多くのトルコ人が

クルド人と偽って難民申請をしている“と話す。それを肯定するトルコ人も、否定するトルコ人もいる。

日本国内に住んでいるクルド人は約2000人と言われ、その6割強が、埼玉県川口市や蕨市など県南地区に住んでいる。最近ではシリア内戦の戦火を逃れるため、難民として来日する人も増えている。クルド人の故郷の地であるクルディスタンと蕨（わらび）を掛け合わせ“ワラビスタン”とも呼ばれる。



クルド人の新年祭“ネウロス” 日本の公園で

紀元前、中東地域に残酷な王が存在し、病気にならないようにクルド人の若者の脳みそを食べていた。

ある日、クルド人の若者がこの無慈悲な王へ反旗を翻す。王を倒し城を占拠。城郭の上で火を焚き、勝利を知らせた。これが、クルド人新年祭“ネウロス”の起源とされる話“抑圧からの抵抗と自由”を皆で祝うのだそうだ。

そんな神話のような昔の出来事から2000年以上の時を経て、まさか中東から遠く離れた日本で、ネウロスが大規模に開催されるようになっているとは、当時のクルド人たちも想像していなかったであろう。

埼玉県のクルド人問題は、ともすると外国人排斥運動ではないか、と人権擁護団体が騒ぎそうだが、実際に埼玉県の蕨市や川口市に住んでいる日本人は想像以上の迷惑を被りまた恐怖を感じているようだ。

クルド人が運転する自動車の多くは他人名義、無免許、無保険の場合が多く、対処が煩雑になるので警察も取り締まりに消極的です。 また夜中に住宅街で

大げんか、集団で騒ぐなど迷惑行為の数々。コンビニでのたむろなど日常茶飯事である。深夜に見慣れない男性が集団でたむろしていたら誰だって怖いはずだし、女性であったらなおさらであろう。

川口市や蕨市に住む人々は、こうした一部のクルド人による危険行為に脅かされながら生活している。親が子供を安心させて通学させたり、遊びに行かせたりすることが出来ない。夜一人で出歩くときはドキドキ。日本という国は日本人のための国であり、外国人が住みやすいように日本人の方が努力するのは間違いないか。

人権問題を振りかざして埼玉県の人々を非難する人は、しばらくここに住んでみたらよい。



JR蕨駅前にて。よくクルド人がたむろしているという場所にはこんな張り紙が（写真以下すべて筆者提供）

蕨駅前の階段にこのような張り紙がしてある。階段にクルド人がたむろして駅前の通行に困っているようだ。

勿論日本の生活になじんでいる外国人もたくさんおるし、日本人以上に日本に造詣の深い外国人も沢山おる。

川口市や蕨市に居るクルド人は一体どのような資格で日本に居るのであろうか。1990年代から日本に難民として保護を求めてくる人が増えた。およそ15年で、日本に難民申請したトルコ国籍の人は9700人以上、その多くがクルド人と見られているが難民認定されたのは1人のみである。

現行の法律では、難民申請が認められず、退去が確定した外国人は、原則として退去まで、施設に収容されることになっている。しかし近年、新型コロナウイルス対策として収容所の密を避けるためや、人道的な観点から、施設の外で生活する“仮放免”の人たちが増加している。

支援団体によると、難民申請を行うクルド人の多くは観光ビザで日本に入国。川口市周辺で暮らす知人などの伝手を頼って、集まってくると言われる。国外への退去手続き中という立場のため、国は就労や健康保険への加入を認めていない。

医療費は10割負担で、病院で治療を受けることが出来ず、生活に支障をきたす人も少なくない。



このような状況の下川口市は国に異例の要請を行った。今、川口市が把握するだけでも、市内にいるトルコ国籍の仮放免者は900人以上、その多くはクルド人だと見られている。川口市はこの仮放免制度を巡

り国に要望者を提出した。

- 1) 不法行為を行う外国人においては、法に基づき厳格に対処（強制送還等）して頂きたい
- 2) 仮放免者が、市中において最低限の生活ができるよう就労を可能とする制度を構築してもらいたい。
- 3) 生活維持が困難な仮放免者について、“入国管理”制度の一環として、健康保険その他の行政サービスについて、国からの援助措置を含め、国の責任において適否を判断していただきたい。

不満の背景にあるのは、仮放免制度の前提と実態の乖離である。川口市を拠点に解体現場で働いている日本人男性は、最近、多くの現場で働けないはずの仮放免のクルド人を目にするという。深刻な人手不足に直面する解体業界。仮放免のクルド人がいなければ現場は成り立たないと男性は打ち明けた。

仮放免での就労は違法で、発覚すれば施設への収容に繋がる。しかし実際は人不足の折、これらの人に依存している。川口市、蕨市の問題は今後人口減少に向かう日本の移民制度にも関わる問題である。